

## 取扱いにあたっての警告・注意事項

このたびはKITZの製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品を使用するにあたり、この説明書を熟読し、ご理解の上、正しくお取扱いください。

また、製品を正しく使用するために、この説明書は保管してご利用ください。

\* 取扱いに関する詳細な内容が必要な場合には、別に用意した取扱説明書等をご請求、ご覧ください。

### 製品の危険性についての用語

**警告**：取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。

**注意**：取扱いを誤った場合、使用者が軽い、若しくは中程度の傷害を負う危険が想定される場合、または物的損害・損壊の発生が想定される場合。

### 使用前について

#### 注意

1. 製品についている銘板表示内容と注文された型式の下記仕様 ★ 部分を確認してください。
2. 下記仕様の ☆ 部分が使用条件を満足することを確認してください。
3. 下記の仕様を超えての使用はできません。

### 仕様

★ 型 式	WMR-M20型	WMR-H20型
☆ 呼 び 径	20	
☆ 適 用 流 体	水道水	
☆ 適 用 温 度	常温	
☆ 一次側適用圧力	1.0 MPa以下	
★ 二次側調整圧力範囲 (標準設定圧力)	0.2 ~ 0.3 MPa	(0.25 MPa)
☆ 最大減圧比	10 : 1	
耐 圧 性	テストガクを使用して 1.75 MPa	
付 属 品	保温ケース・ガスケット・テストガク	

### 製品の梱包内容

梱包（保温）ケース内には、次の部品が収納されています。

収 納 部 品	数 量
減 圧 弁 本 体	1
ガ ス ケ ッ ト	2
テ ス ト ガ ク	1

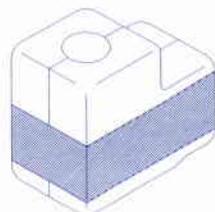
テストガク ガスケット



減圧弁



保温ケース



本製品を梱包しているケースは保温ケースとして、またスリーブはケースの固定用としてご使用ください。

## 設置について

- 注意**
1. 配管接続に使用するシールテープ・液状シール剤など、配管内に異物が入らないよう注意してください。
  2. 製品を取付ける前に、配管の洗浄を充分に行ってください。  
\* 配管の洗浄が不十分な場合、減圧弁取付け後、ゴミ噛みによる減圧不能やストレーナの目詰まりによる水量不足の原因となります。
  3. 製品を配管に接続する際には、製品の流れ方向を示す矢印と流体の流れ方向を合せ取付けてください。
  4. 保守点検に必要なスペースを確保してください。

## 《テストガグによる通水・耐圧試験（居室内）方法》

- 注意** 減圧弁への通水前に、立て管（主管）の洗浄を充分に行ってください。  
\* 管内の洗浄が不十分な場合、ゴミ噛みによる減圧不能やストレーナの目詰まりによる水量不足の原因となります。

### 〔通水前〕

- a. 保温ケースに収納されているテストガグを取出します。
- b. キャップを取外し、圧力をかけない状態でテストガグをパネケースにねじ込みます。

- 注意** 加圧された状態でテストガグは、完全に装着することはできません。

### 〔通水・耐圧試験〕

- a. テストガグをねじ込んだ状態で通水・耐圧試験を行ってください。

- 注意** 耐圧試験圧力はテストガグをねじ込んだ状態で**1.75MPa以下**としてください。



### 〔試験終了後〕

- a. 水圧を下げた後、テストガグを取外しキャップをねじ込んでください。

- 注意** テストガグを取付けた状態では減圧機能は発揮できません。
- b. 給水量が少ない場合などにはストレーナを点検し、清掃を行ってください。
  - c. 取外したテストガグは、保温ケースに収納し保管してください。

### 注意

『通水・耐圧試験時は必ずテストガグを装着し、試験後は水圧を抜いてからテストガグを取外してください。』  
水圧を下げないとテストガグを外せません。また、無理に外そうとすると、内部部品が損傷する恐れがあります。

## 圧力計の接続について

- 注意** 圧力計を必要以上にねじ込むと、圧力計用継手に亀裂が生じる場合がありますので、次の要領で接続してください。

1. 圧力計は当社のオプション品をご使用ください。(圧力計用継手の接続サイズはJIS Rc1/4です。圧力計のねじが管用平行ねじ (JIS G1/4) のものは、絶対使用しないでください。)
2. 圧力計は耐圧試験終了後、水圧を下げた後に取付けてください。(圧力計を取付けたまま高压で耐圧試験を行うと、破損による外部漏洩の可能性あります。)
3. 圧力計の取付けは、ねじ部にシールテープを2～3巻し、手でねじ込める所まで強めにねじ込んでください。(圧力計が約2.5回転ねじ込まれた時点で、圧力計に導水されます。)
4. その後、工具 (スパナ等) で約1回転程度、増し締めしてください。  
\* 手締めと工具での締めを含め、ねじ込みの回転数は最大で4.5回転程度です。(圧力計のねじが3山程見える程度。)

## 保守について

- 警告** 製品の分解にあたっては、一次側の止弁を止め、減圧弁内の流体を徐々に排出して、圧力が零になっていることを確認してから行ってください。

### 注意

1. 製品の分解にあたっては、熟練した専門の方（設備、工事業者の方など）が実施してください。  
一般のご使用者は、分解しないでください。水の出が悪い、流れが不安定などの異常がある場合は設備、工事業者または、当社に処置を依頼してください。
2. ストレーナは定期的に清掃してください。使用初期は配管内の異物が溜まりやすいので、特に清掃の必要があります。
3. 1年毎に給水圧、流量（水の出具合）を確認ください。
4. 3～4年に1回分解点検を行ってください。特にダイヤフラム、ディスク等の消耗部品の損傷状態を確認し、損傷がある場合は更新が必要です。